

集中治療室でせん妄状態の患者が安心できるケア方法の開発-患者の経験を基盤とした評価-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 美香 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003379

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 41 号

集中治療室でせん妄状態の患者が安心できるケア方法の開発 - 患者の経験を基盤とした評価

(Development of a care method in which patients with delirium in intensive care unit can feel safe: Evaluation based on patients' experience)

阿部 美香 (あべ みか)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は、集中治療下にあるせん妄発症患者の内的体験を基盤に、患者の情緒的安定をもたらすケア方法を初めて明らかにした意義ある論文である。

研究 1 では、集中治療室入室中にせん妄を発症し回復した患者 3 名への非構造化インタビューを通して、せん妄発症時の患者の内的体験を明らかにした。そして、せん妄発症時にみられる患者の興奮した行動が、見当識障害の中で気がかりが生じ、それを医療者に伝えようとしても伝わらないことで恐怖が生じ、その恐怖から逃れようとするのが興奮した行動となって表出されるという過程を明らかにした。

研究 2 では、せん妄発症患者は医療者との相互作用がかみ合わず社会的支持を喪失したことにより精神的危機に直面しているという研究 1 の結果をふまえ、ポリヴェーガル理論を基盤に、看護師の関わりが社会的支持となるような、即ち看護師の関わりによりせん妄患者が直感的に安全と感じることのできるケア方法案を作成し、準実験研究 (介入群 3 名・対照群 4 名) を行った。安全感の指標としたバイタルサインにおいては薬剤等の影響により差は認められなかったが、介入群の患者からはせん妄症状が出現している中でも看護師の関わりにより安全安心を感じることができたことが語られた。

これまでも集中治療室の看護師は患者の興奮を落ち着かせようと安全感を感じられるような関わりを行ってきたが、根拠に基づいて行ってきたとは言いがたい状況であった。本研究が、そういった看護に根拠を与え、さらに、集中治療室入室中のせん妄発症患者に安心をもたらすケア方法として体系化したことは、学術的および臨床的に高く評価される。よって、本論文は博士 (看護学) の学位を授与するに値するものと判定した。